

会報 第一号 島根県精神当事者連絡会 準備会



私たち、島根県精神当事者連絡会は、昨年11月から、県連の準備をはじめ、今日まで来ました。最初は、ばらばらだった考え方も、修正し、いつでも立ち上げることができるようになりました。アンケートの結果、大会を開くことで、正式な県連とすることにしました。まだ、準備をはじめて、1年しかたっていないこともあり、あせらず、大会を企画することになりました。アンケートでは、本年度の大会開催については、無理だとの意見が多かったですが、できるだけ早い時期に開催したいと思います。代表者会議を、開催して、めどをたてたいとも考えております。みんなのための、県連を立ち上げるため、これからも、準備会でがんばっていきたいと考えております。

出雲の会 Hさん

当時者会（出雲の会）の成り立ちについて
退院後さみしさから、同じ病気を持った仲間4～5人で、交流をはじめました。これがきっかけで、仲間をはじめ、35人の当事者会となりました。補助金がなくては、活動ができないため、最初は、家族会から補助をもらっていました。この補助が、問題になり、他からの補助をもらわなければならなくなり、斐川町から年間3万円の補助をもらうことになりました。メンバーの数も増え、補助金もカットされ、社会福祉協議会から、補助金をもらうようになりました。さらに補助金もカットされ、ライオンズ倶楽部からも、補助金をもらうようになりました。

現在は、順調に当事者が、運営されています。

県連について

5年くらい前、前の精神保健センターの所長だった、永岡先生に話することがあり、県連を作ってみないかと言われました。出雲の会の運営だけで、せいっぱいだったためすぐには、行動に多せませんでした。心のなかには、いつかは、作りたいという気持ちのこりしました。昨年10月、県内10当事者会に対して、アンケートをとったところ、県連を作りたいという答えが、ほとんどだったため、永岡所長と連絡を取り、予算をもらい、活動を開始しました。月1回くらいのペースで、主に県東部の当事者と、話し合い、準備を進めてきた。現在、県連ができる手前までいっています。9～10月には、準備が完了すると思います。補助金については、大変苦しく、ここらと体との相談センターからの補助金で活動しています。共同募金会、島精連、ヤマト財団などに、補助金のお願いをしましたが、むづかしいのが、現状です。自分たちのための、県連ということからすれば、自分たちで、何とかしようとしなければならない、思いをおしているのが、正直な気持ちです。

当事者が、暮らしやすい社会を作るため、みんなで協力して、がんばっていきましょう。

とくめい希望

この度は島根県精神当事者会の発足おめでとうございます。今年度の夏は、早くから暑い日が続き体調を崩され苦労された方もいらっしゃるかと思います。私も今年は、六月の末頃から、体調不良が続き、加えて二人で暮らしていた母が入院、生活のすべてが自分の肩にかかり、精神的にも肉体的にも、辛い日々を送りました。精神の病を負ったことは、現実生きるうえで、やはりハンディを背負う事は否めると思います。その負ったハンディを抱えるがら、いかに自分が自分らしく生きてゆけるか、その事が私が生きる上での大きな課題でした。

十年前、病院を退院し、家に帰ってから様々な経験を重ね今日に至っています。当時結婚をしていて、三人の子宝にも恵まれ幸せを感じられる日々を送っていました。その後、家庭の破壊、父の死を大きな節目の中で試練を迎え、様々な所で相談に乗ってもらったり、話を聞いてもらいながら、何とか再発を防ぎ、生活させてもらっています。

本当に人が生きるとゆう事は大きな事業だと思います。今の日本に生まれ、いい事も悪い事もそれを認めて、出来湧く問題に一つ一つ取り組み、もう無理だろう、これが限界だろうと思っても、それでもそれでもとあきらめず希望を捨てずに生きてゆく、その事が、人が生きてゆく生かされている事の尊さだと思います。今後とも明るい未来を願いながら、生きてゆきたいと思っています。

組織結成を期に当事者の意識向上を

アクティブあじさいの会
Yさん



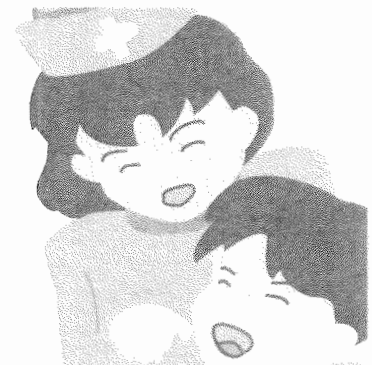
初めまして、アクティブあじさい会の Y という者です。この度全県組織を立ち上げるにあたり、私の所感を少し書かせてください。今、国は障害者支援法等、我々の生活をおびやかす方向へ向かっています。我々当事者は、病気や問題を自分の事して受け止め、またありのまま受け入れ現実と直面し強く生きていかねばならないと思います。親もいつまでも元気でありません。意識を向上させて行くこと。病気によってそれが出来ない人もいます。しかしそれが可能な人なら是非実行してほしいです。偏見や差別に負けないでありのままの自分を受け入れて下さい。たやすい事ではありませんが、それが出来たら心が楽になります。

そしていつまでも人のせい、何かのせいにしないで、自主性を持ってほしいです。僕は親が一生懸命勉強したり心配しているのに当人に意識がない当事者の人を何人も知っています。やはり自分のこととして直面していくべきだと思います。当事者側もあまりにも家族会医療サイド、福祉サイド、ボランティア等にまかせっきりで、肝心の当事者があまりにも人まかせのように思えることがあります。もっと当事者は自分達の事を自分の声に出していかないと行けないと思います。全県組織を結成するにあたり、みなさんで我々のことを少しでも良い方に変えていこうではありませんか。

「障害者になって思うこと。」

Nさん

アクティブあじさい会の N です。平成3年、5月、長年の大量飲酒が祟り、ある日、突然、精神錯乱状態に。気がついた所は、精神病院の一室。今日に至る迄、計6回の、入院を繰り返してきました。10年一昔とはよく言ったもので、当時病室は、現在の様に、夏の冷房器具は、エアコンではなく、扇風機。又、暑い時は、個々に団扇で、自分をあおいで、涼をとっていました。現在でこそ、どうも、思わないにしろ、びっくりしたのは、盆踊り大会が、あるという事で（病院の年中行事－レクリエーションで）、それまで、盆踊りなど、踊ったことも全然なく、練習に参加し、当日、本番を迎え、踊り、他の患者さんと、楽しい、ひと時を過ごしたのが、今でも印象に残っています。暑かろうということで、控えて座っている席の回りに、たらいに、氷を一貫目づつ入れ、所々に配られ、綿菓子、ソーメン、かき氷、そばなどの屋台も、職員さんが出され、盛り上がった、雰囲気でした。



その後、三回目の入院が、5年と、一番長く、今でこそ、食事も改善され、良くなっていますが、昔は、野菜と、肉の煮込み料理のような、おかずが、多く、なかなか、食べにくくて、残していたら、ある看護婦さんが、「食べないと、元氣にならないよ。」と、注意して下さり、少々、行儀は悪い様ですが、考えて、このおかずを、ご飯の上に、かけて、丼ふうにして、口にしたら、ところ、いくらでも、食べられ、それからと言うもの、どの様な、おかずでも、残さない様になりました。又、レクリエーション等の時は、リーダーをさせて頂き、それまでになかった、力も付けさせて頂きました。又、結果的に言えば、現在、アルコールは、飲まない訳ですが、それでも、いろいろな悩み、嫌な事があった時など、「飲みたい。」という衝動にかられても、飲まずに自分をコントロール出来るのも、この5年間で、ありからこそ、思います。

現在に至る迄の、経緯を述べさせて頂きましたが、アルコール依存は、脱したとは、言うものの、うつ症状、パーキンソン病の初期症状、パニック症候群、難聴、視力障害（左、右、0・4）抗うつ剤の副作用によりなど、により、薬を一日、19錠、服用している状態です。又、悩みとしては、家族が、心配はしてくれるものの、病気に対し、理解が、余り無い事。たとえば、家族会に、入会してくれるというか、その様な事は、ないと思います。又、医療に関して申し上げれば、心配して、いってくださるのは、ありがたい、と思いますが、何か、困った事があれば、入院しなさいとか、物事に対し、無理をしていなくても、無理をしない様にと、行動にストップをかけられる事などです。



長期間の病気との関わりの中で、いつも思う事は、松江市、出身の漫画家の故人であられる園山俊二さんの「人生は戦いである。」という、言葉と、共に、山中鹿之助公の「天よ我に、艱難辛苦を与えたまえ。」という言葉です。又、私自身が、健学者であった時、これは、反省ですが、障害者の方を目にした時、目障りだ、と思った事などですが、これに関し、先日、雨のある日、バスに乗っていて、下車しようとした時、少し、体が、ひらつき、その時、乗車しておられた、ある女子高生の方が、「大丈夫ですか。」と声を、かけてくださった時、どうもなかった訳ですが、何か、救われた気がしました。他に、現在、作業をしていて、自分が苦しい時他の人が、鏡になる事がありますが、作業所も4年目になりますが、この様に、思える様になった事は、「少しは進歩したな。」と、思う事です。以上、とりとめもない事を、述べてまいりましたが、今後、無理をぜず、あせらず、日々過ごしていきたいと思います。

今度から、原稿を募集します。
投稿され、掲載された方は、若干の御礼をしますので、
お願いします